

HOYA株式会社

2024年3月期 第4四半期 決算説明資料

2024年5月15日

将来予測に関する記述

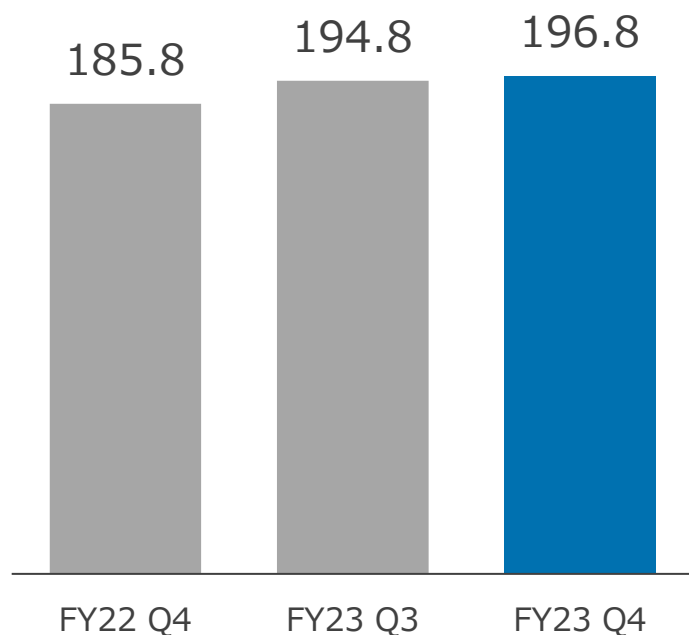
当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

01. FY23 Q4業績

連結業績概況

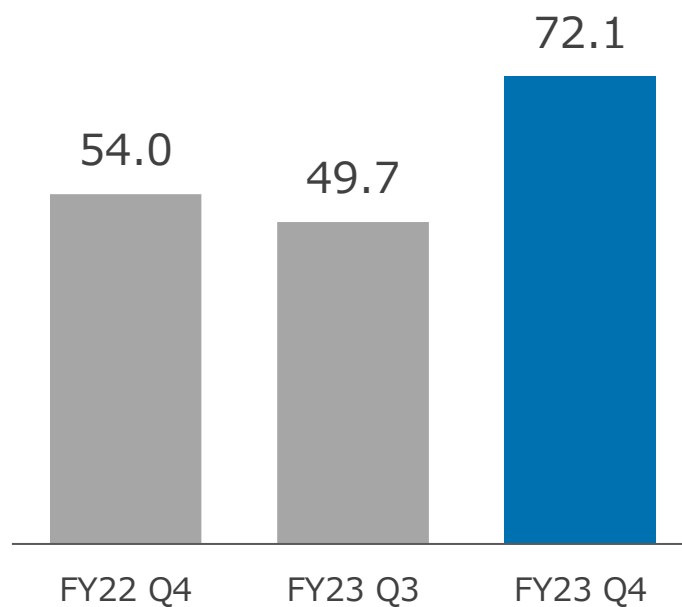
- ライフケア事業が情報・通信事業のマイナスをカバー、為替換算の影響で増収。過去最高売上を更新した
- 期中に円安が進行したことで為替差益が発生し、税前利益は大幅増益となった

売上収益 (十億円)



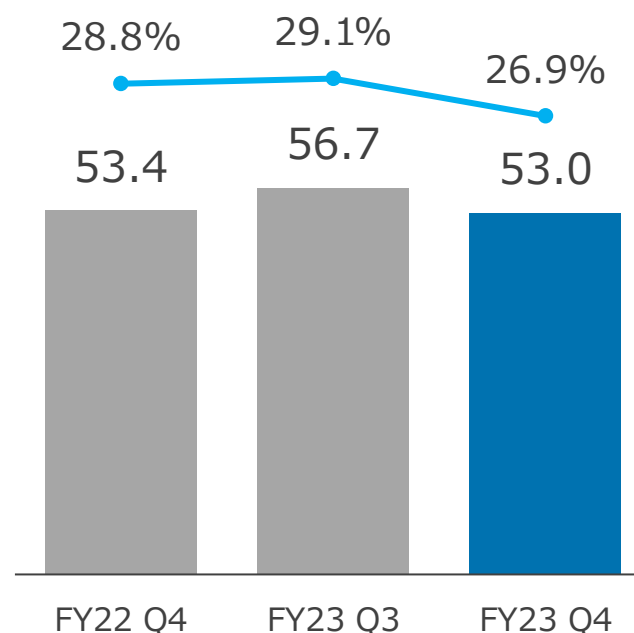
YoY +6% (CC* -1%)

税前利益 (十億円)



YoY +34% (CC +27%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率

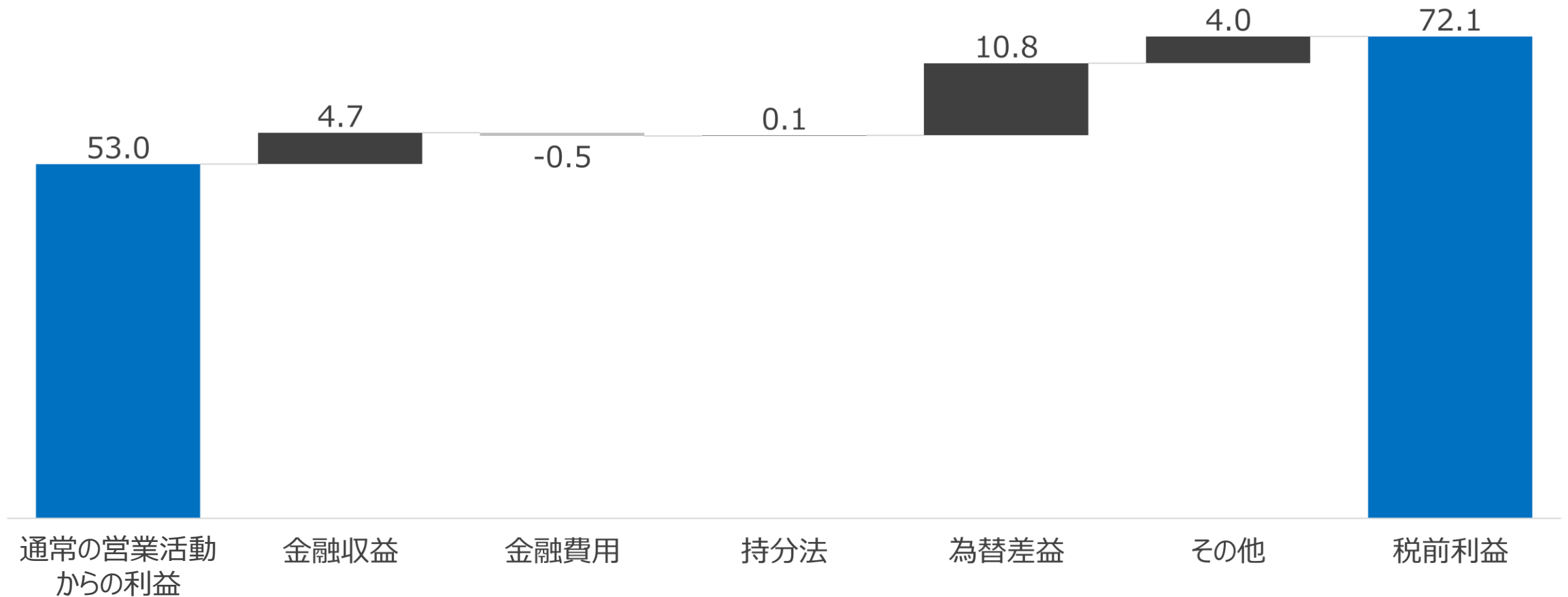


YoY -1% (CC -5%)

通常の営業活動からの利益と税前利益の差異要因

- 通常の営業活動からの利益と税前利益の差異191億円は、為替差益108億円が主要因
- なお、FY23 Q3は為替差損（-114億円）を計上したため、税前利益はQoQでも大幅な増益となった

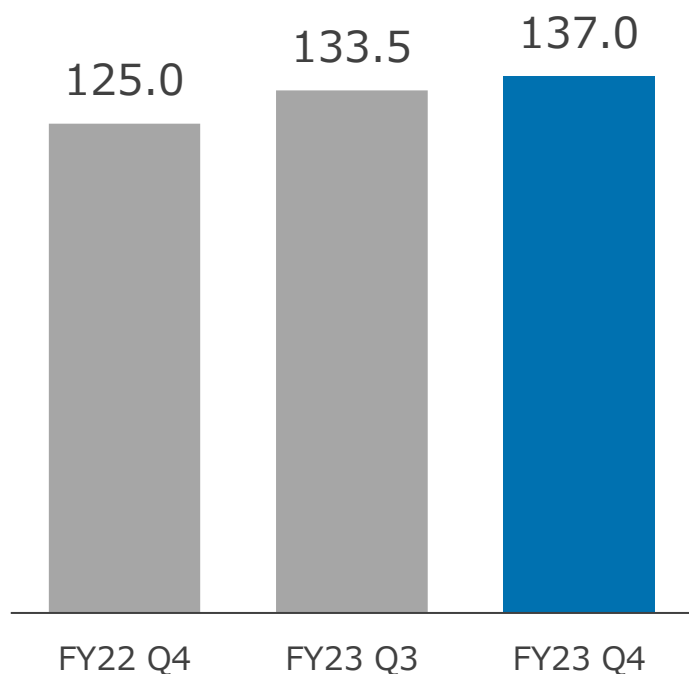
FY23 Q4通常の営業活動からの利益 - FY23 Q4税前利益（十億円）



ライフケア事業概況

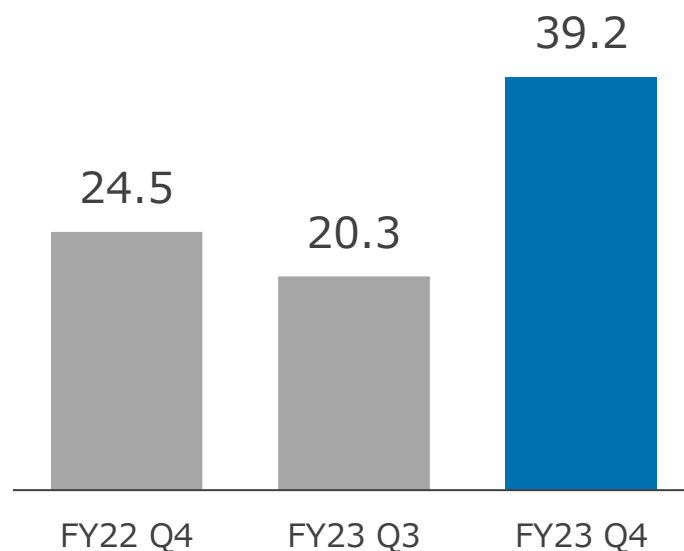
- 中国市場の外部環境が急速に悪化したものの、為替換算影響もあり2桁成長を達成した
- 一時費用の発生などもあり、通常の営業活動からの利益率はやや低下したものの、概ねベンチマークのレンジ内におさめることができた

売上収益 (十億円)



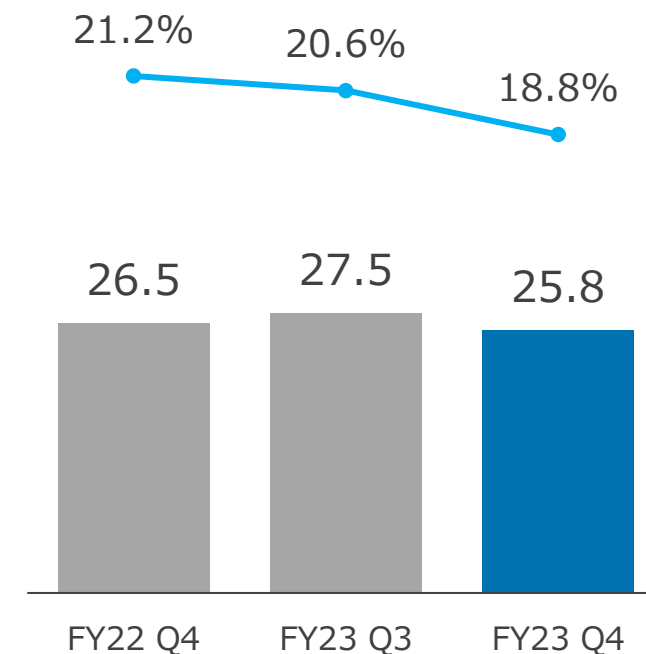
YoY +10% (CC +2%)

税前利益 (十億円)



YoY +60% (CC +52%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY -3% (CC -7%)

ライフケア事業 製品別概況：メガネレンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+13%

+3%

当四半期の状況

- 累進レンズ等の新製品の立ち上げに伴い、各国で売上が伸長
- 景気後退などの影響により中国で減収

今後の課題/展望

- システム障害により生産や受発注が一時的に停止、主にQ1にマイナス影響を見込む（後述）
- 引き続き付加価値製品の拡充を継続し、製品ポートフォリオを強化



ライフケア事業 製品別概況：コンタクトレンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+6%

+6%

当四半期の状況

- 2月発売のhoyaONE LUMINOUSを含め、プライベートブランド品の販売が好調
- オンライン販売も好調が継続した

今後の課題/展望

- 新規顧客開拓（出店/マーケティング）× リテンション向上（PB品/オンライン販売）× 単価上昇（高付加価値品）での安定成長を図る



ライフケア事業 製品別概況：内視鏡

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+3%

-9%

当四半期の状況

- 反腐敗運動による取引の遅れや価格競争の影響により、中国での売上が大幅減

今後の課題/展望

- 反腐敗運動や集中購買制度などの影響が懸念される中国の状況を引き続き注視
- 中国でのビジネスを抜本的に見直していく予定



ライフケア事業 製品別概況：眼内レンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

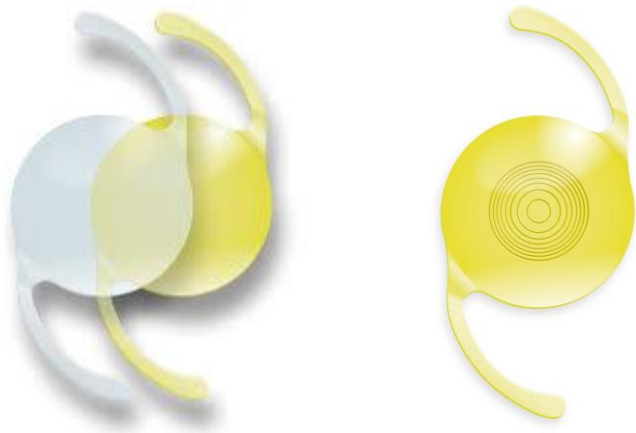
売上成長率

+10%

+3%

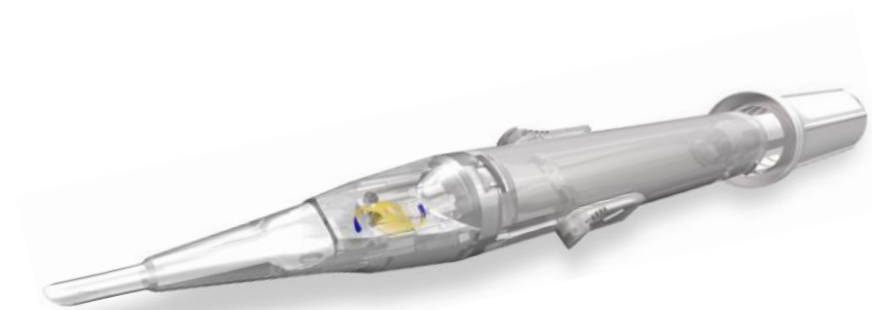
当四半期の状況

- 中国で集中購買制度の影響により単価が下落
- 欧州で一時的に供給体制に問題が発生したものの、全体では増収を確保



今後の課題/展望

- Gemetric(三焦点)やImpress(単焦点新製品)などを着実にローンチ
- 中国での集中購買制度の状況を引き続き注視



ライフケア事業 製品別概況：人工骨ほか

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+8%

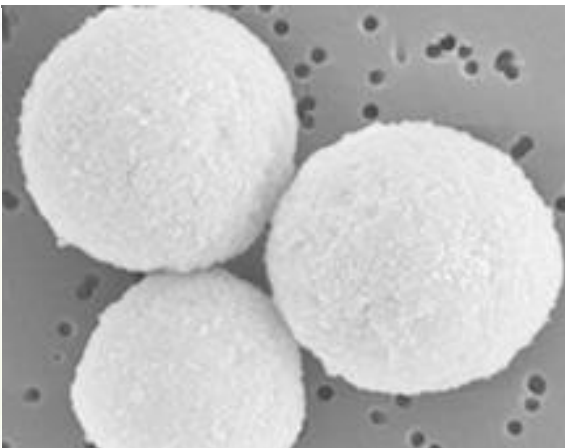
+1%

当四半期の状況

- 在庫調整により人工骨は減収
- 内視鏡洗浄機や処置具は堅調に推移した

今後の課題/展望

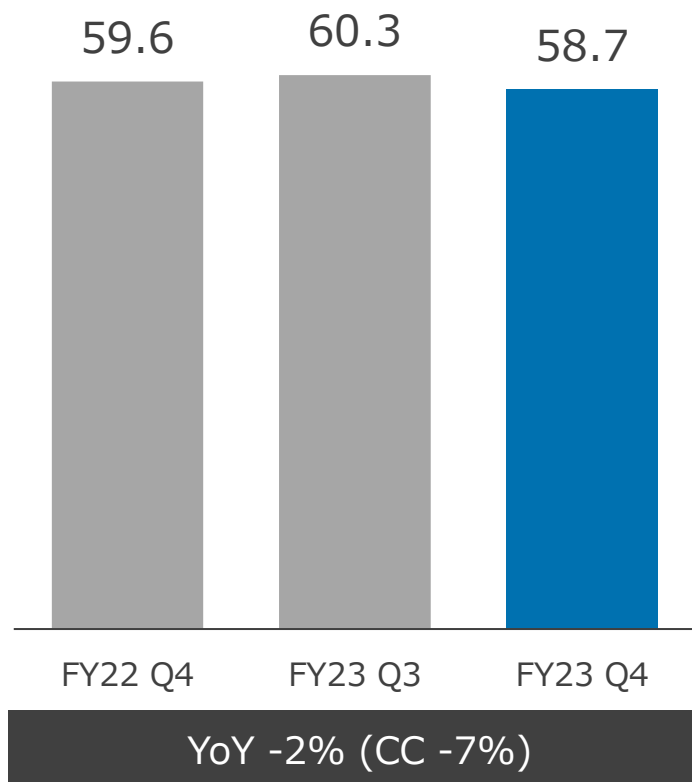
- 各製品における新製品の着実なローンチ



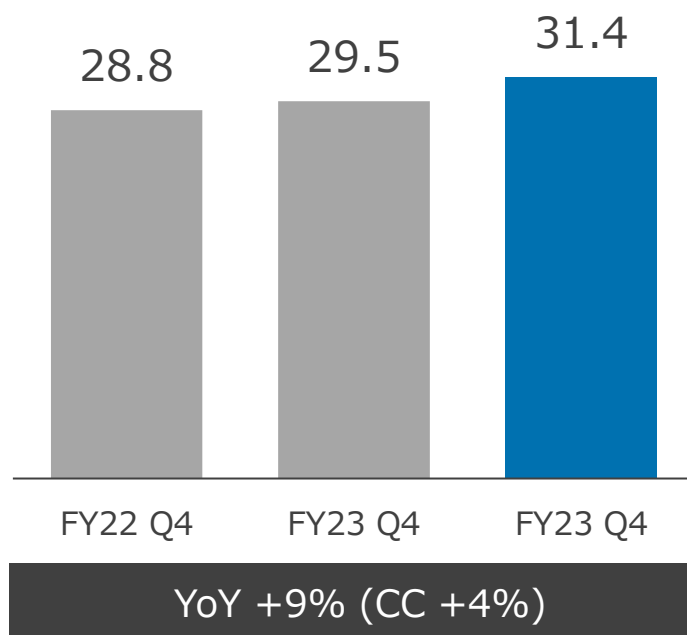
情報・通信事業概況

- HDD基板の大幅反動増があった前年同期が比較水準として高く、減収となった
- 情報・通信事業にとってQ4は売上が低い四半期だが、HDD基板やブランクスの需要が想定より強く推移した
- 主に映像関連製品の収益性向上により、利益率は前年を上回った

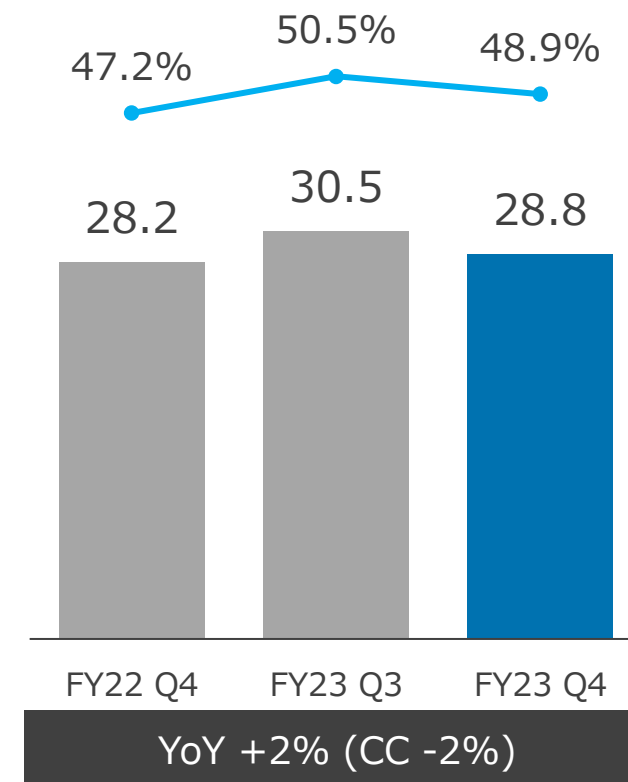
売上収益 (十億円)



税前利益 (十億円)



Cf. 通常の営業活動からの利益/利益率



情報・通信事業 製品別概況 : LSI

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+6%

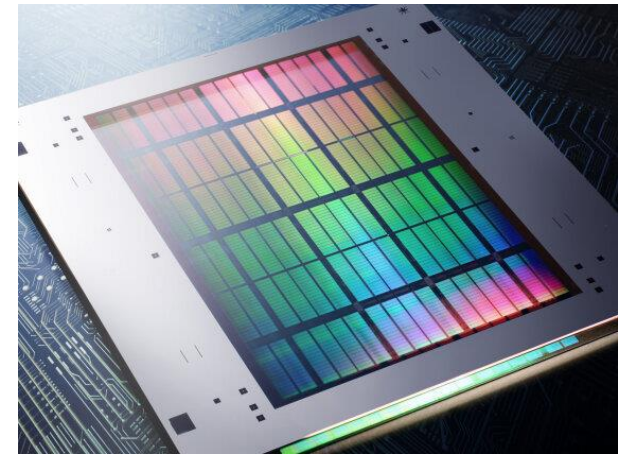
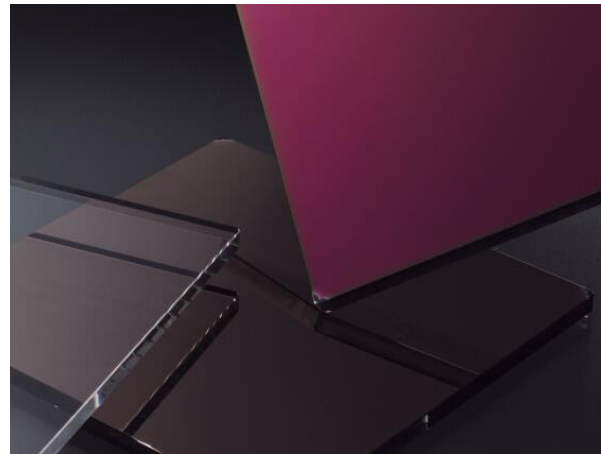
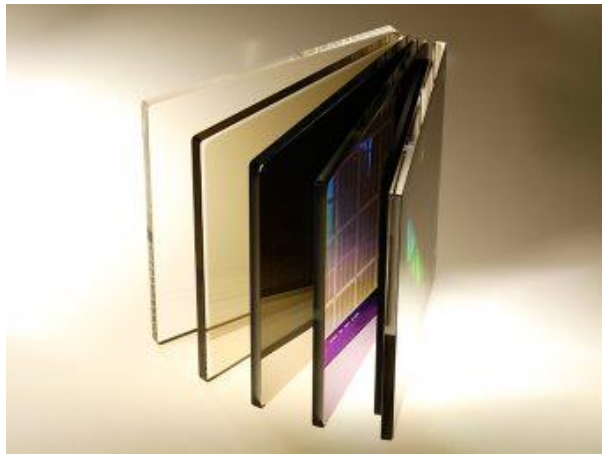
+4%

当四半期の状況

- EUVブランクスは季節性の影響がありつつも、需要が底堅く推移し、増収を確保
- 競争環境に大きな変化は見られていない

今後の課題/展望

- 3月末でEUVブランクの在庫調整が概ね完了、顧客からの需要が大幅に増加する見込み
- Technology Leadershipのポジションを堅持すべく顧客や装置メーカーとの開発活動を継続的にこなす



情報・通信事業 製品別概況 : FPD

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

-4%

-5%

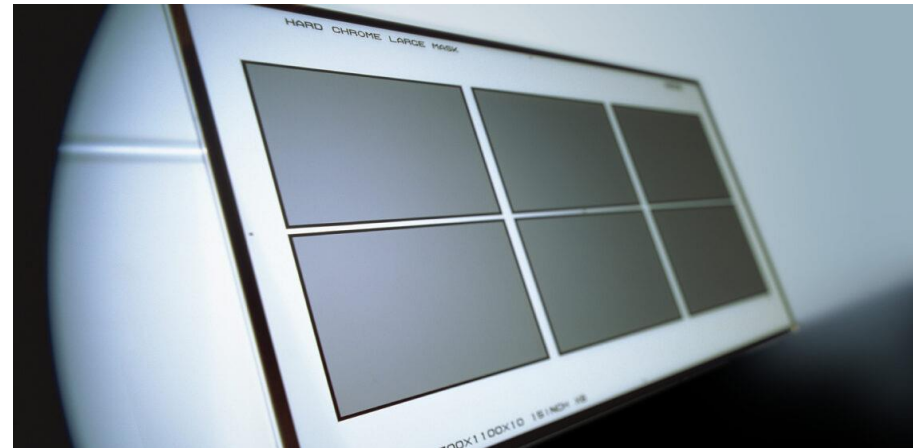
当四半期の状況

- Q3に引き続き、装置入れ替えなどの影響によるキャパシティ減により、減収となった



今後の課題/展望

- 4/3に発生した台湾地震の影響で描画機・測定器の修繕が発生、Q1の売上にマイナス影響が見込まれる
- 中国重慶の新工場が下期に稼働開始予定。FY24は事業転換に向けた準備期間の位置づけ



情報・通信事業 製品別概況 : HDD基板

Reported Basis

Constant Currency Basis

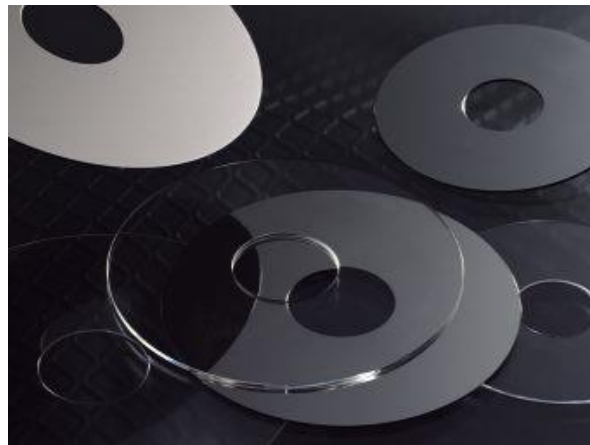
売上成長率

-16%

-26%

当四半期の状況

- 前年同期にガラス基板の在庫調整からの大幅反動増があったためYoYでマイナス
- しかしながら、ニアラインでのHDD在庫調整が昨年末に完了したことで、3.5"基板は想定を上回る需要だった



今後の課題/展望

- 生成AI等によるデータ流通量拡大に期待
- 需要増に備え、ラオス工場再稼働時期を検討



情報・通信事業 製品別概況：映像

Reported Basis

Constant Currency Basis

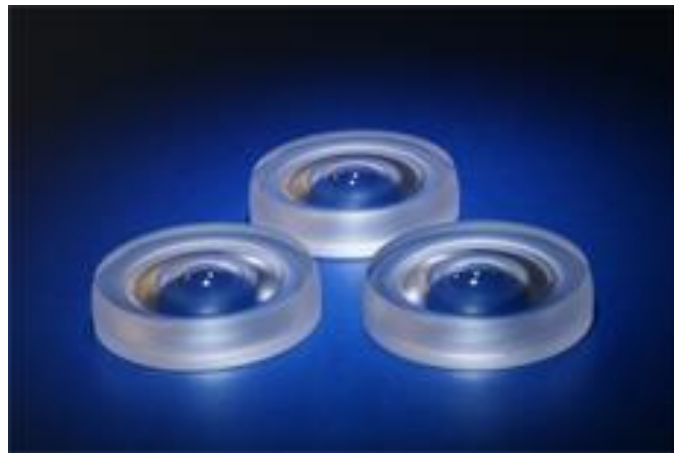
売上成長率

+20%

+15%

当四半期の状況

- 米州や中国におけるミラーレスカメラ向けの交換レンズの販売好調を背景に、増収が継続
- 自動運転向けの製品も好調に推移



今後の課題/展望

- 収益性を確保できる体制を継続
- 光学技術を活かしたビジネスドメインの拡大機会を継続的に探索



貸借対照表/キャッシュフロー関連



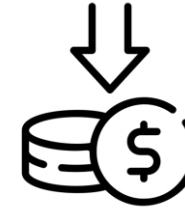
キャッシュ/株主還元

- 円安の進行で現預金がYoY +1,193億円、QoQ+746億円
- 500億円の自社株買いを決議。今後も機動的な株主還元をおこなっていく



設備投資*

- Q4実績: 133億円 (YoY +60億円)
- FY23年間実績: 411億円 (YoY +76億円)
- FY24はFPD新工場やEUV向けの投資により、年間で550億円前後を見込む



減価償却

- Q4実績: 116億円 (YoY -12億円)
- FY23年間実績: 472億円 (YoY -24億円)
- FY24は年間で500億円前後を見込む

*CFベース。有形固定資産の取得

02. システム障害について

システム障害の概要と影響

概要

2024年3月30日、サイバー攻撃に起因するシステム障害が発生。国内外の生産や受発注に関連するシステムが停止するなどの影響があった。2024年4月下旬にはシステムが復旧、既に事業活動は概ね正常化している。

影響

主な影響としては、メガネレンズのFY24の成長率が低下し、年間売上が前年比フラットになることが見込まれる（影響の大部分がFY24 Q1に発生する見込み）。需要の回復状況等を見ながら、将来の売上成長確保のための投資も検討

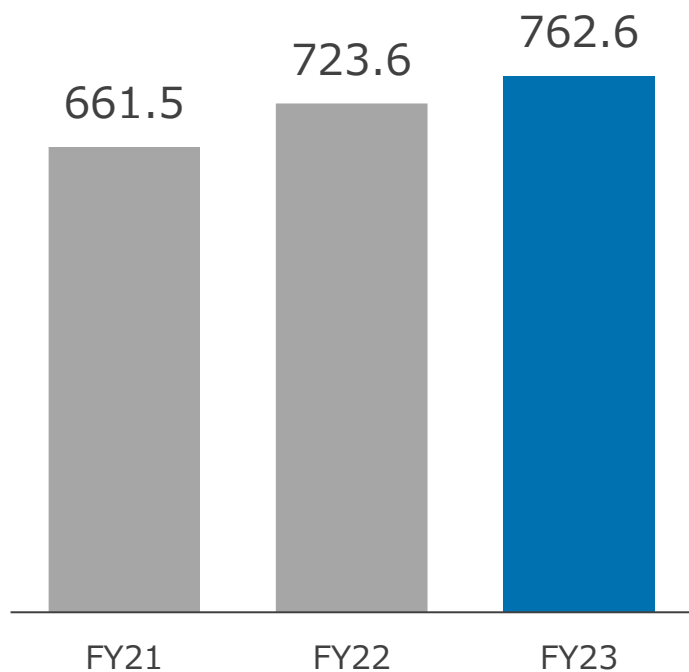


復調のHDD基板やブランクスがマイナス影響を吸収し、
グループ連結での成長を確保する方針

03. Appendix

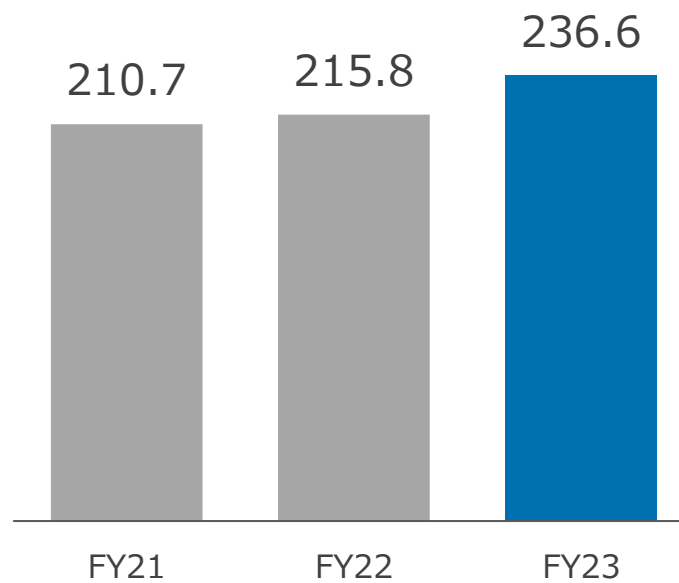
通期連結業績

売上収益 (十億円)



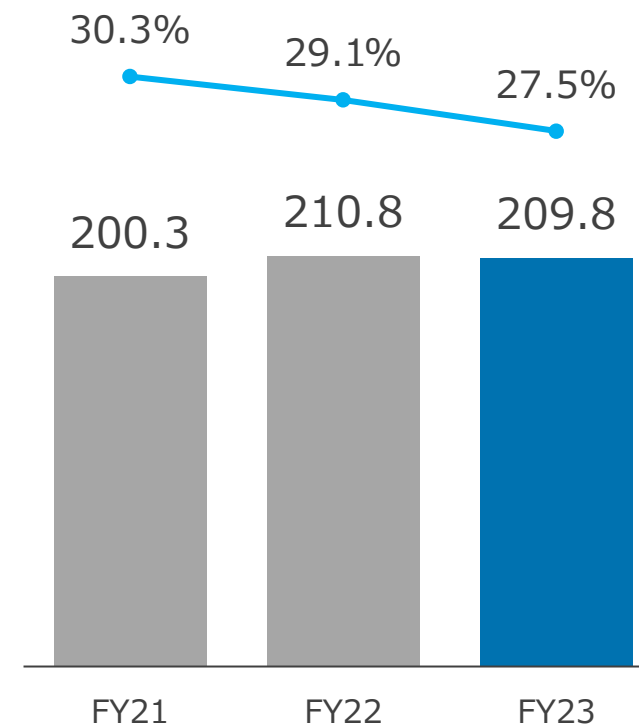
YoY + 5% (CC* +1%)

税前利益 (十億円)



YoY +10% (CC +6%)

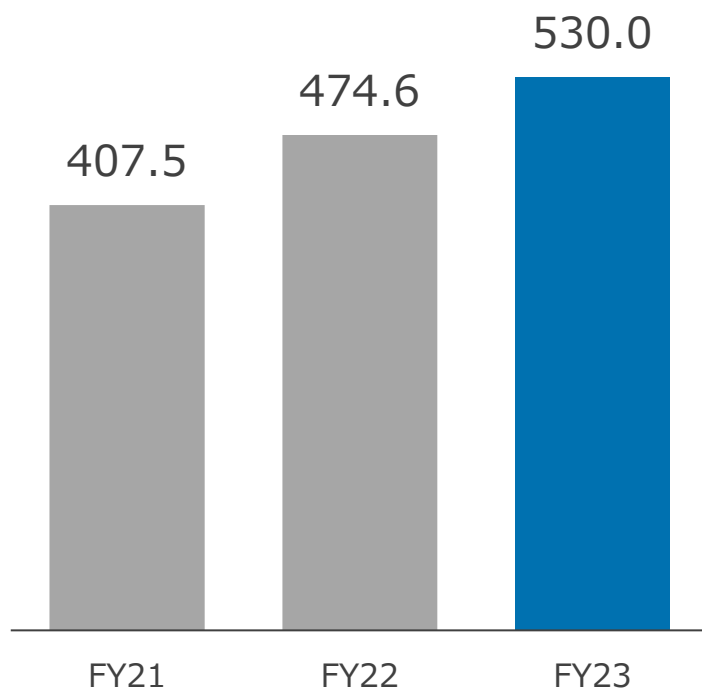
Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY -0% (CC -4%)

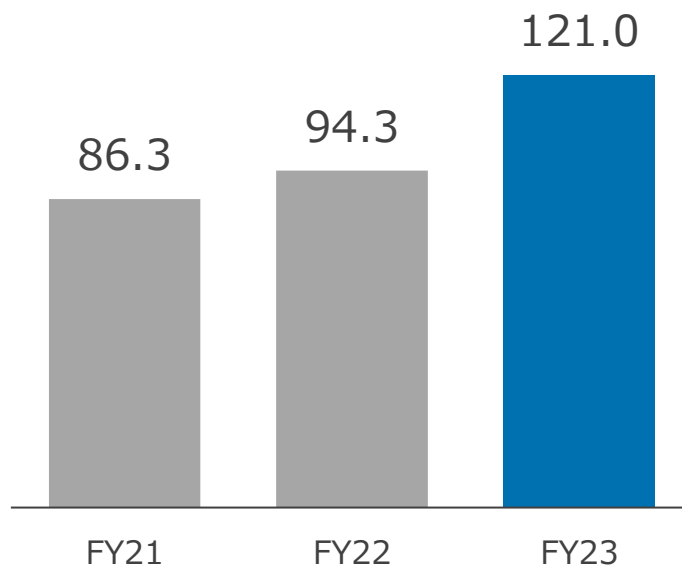
ライフケア事業 通期業績

売上収益 (十億円)



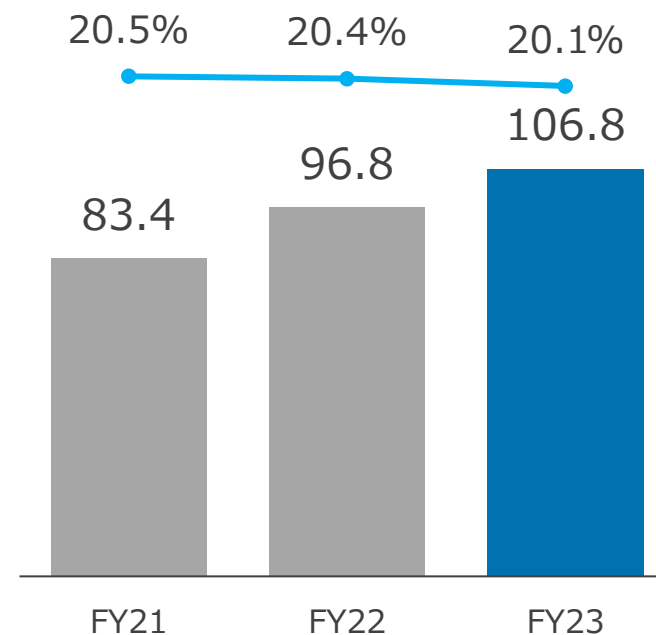
YoY +12% (CC +6%)

税前利益 (十億円)



YoY +28% (CC +22%)

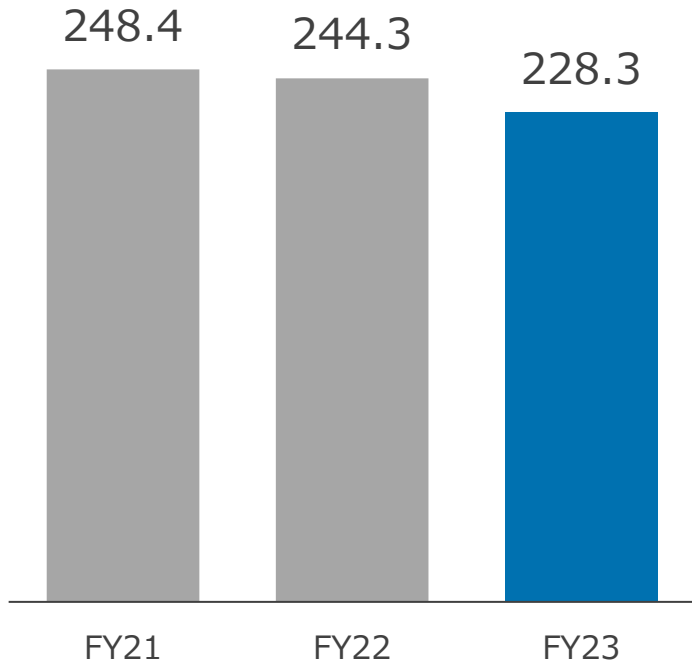
Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY +10% (CC +6%)

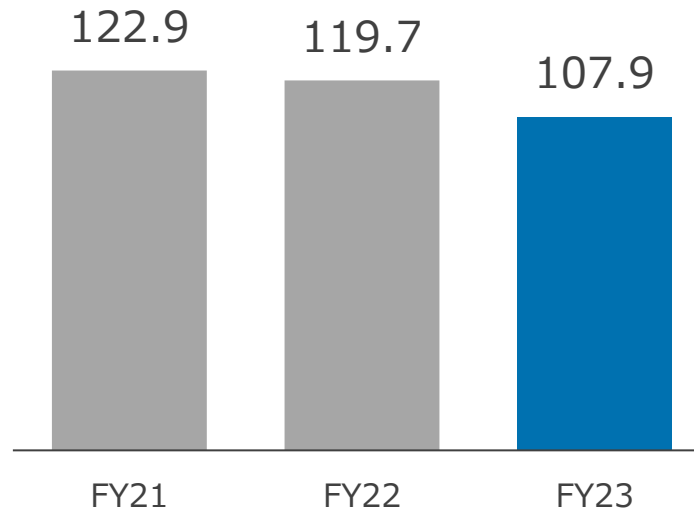
情報・通信事業 通期業績

売上収益 (十億円)



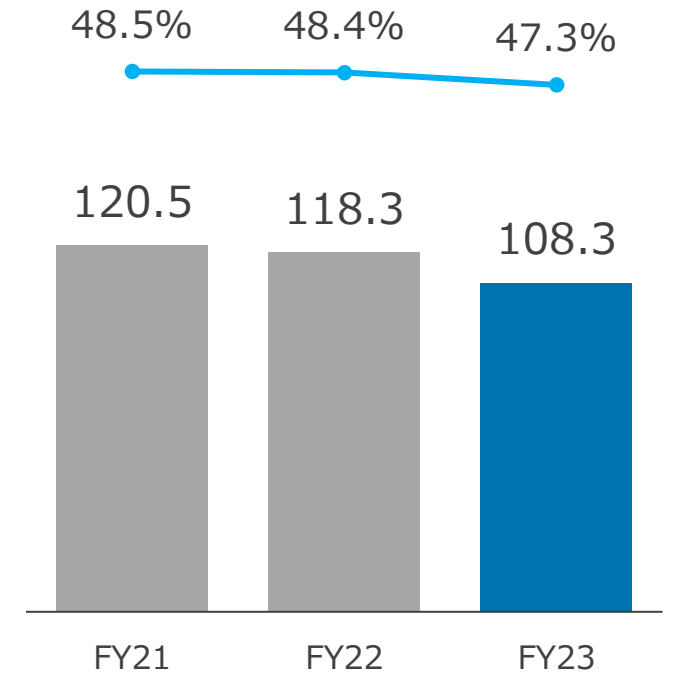
YoY -7% (CC -9%)

税前利益 (十億円)



YoY -10% (CC -12%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY -8% (CC -11%)

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2023年4月～2024年3月の会計期間を2024年3月期もしくはFY23と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 「通常の営業活動からの利益」は、税引前四半期利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<https://www.hoya.com/investor/kessan/>

Innovating For a Better Tomorrow

HOYA